令和３年３月８日

◆ 「深い学び」へ向けて ◆

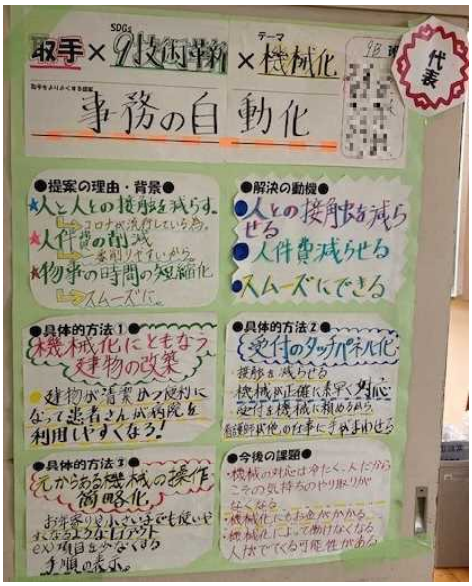
「今度は、生徒に任せてみようと思うんです。」

学年主任のO先生はこう言っていた。

１年生の「探究」学習。臨時休業のためスタートは遅れたけれど、H先生を中心とした学年スタッフによるPDCAを踏まえた懸命な取組と要所要所の「仕掛け」がシンクロし、大きな成果を上げ始めている。

昨年10月に、茨城南青年会議所と取手市役所の皆さんのお力添えをいただき実施したSDGｓを課題としたグループとしての学び。その際にも感じたが、一人では限界のある話題について、グループ内のメンバーからいろいろな意見が出され、一つ上の段階へ止揚する。

今回は、それぞれのグループの発表後、クラスメイトから様々な質問が出てくる。なるほどなぁ、と思えることを臆せず指摘する姿勢には頼もしさを感じる。それに対し、あるグループは短時間でグループ内の意見を集約し、質問者へ回答する。そこには、見事に「対話」の姿があった。当然、その場では解が見つからない場面もある。そう返す姿には潔ささえ感じた。ここにも「藤高クオリティ」が力強く育っていることをとてもうれしく感じた。



生徒の一人にこんな感想があった。

「・・・社会に出て働いていく事がどれだけ大変なのかということを身に染みて感じることができた。」

そうだね。でも、今このことに気がつくことができるなんて素晴らしいじゃないか！

この学びは２年生になっても続く。大きく育った１年生。これからの益々の成長に期待したい。